



令和 2 年 3 月 26 日

深川市議会議長 鶴岡 恵司 様

会 派 名 令和公明クラブ

代表者名 宮澤 孝司



政務活動費収支報告書

深川市議会政務活動費の交付に関する条例第 1 1 条第 1 項 (第 2 項) の規定により、下記のとおり
年度政務活動費収支報告書を提出します。

記

1 収入
政務活動費 360,000 円

2 支出

(単位:円)

科目	金額	備考
調査研究費	263,296円	令和元年10月28日～31日 10月29日 香川県 坂出市・善通寺市 10月30日～31日 高知県 高知市 第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知
研修費	96,704円	令和2年2月11日～14日 滋賀県 大津市 全国市町村国際文化研修所 「交通不便地域の住民サービスを考える」
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合計	360,000円	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 差額 0 円



別記様式第5号(第4条関係)

令和2年3月25日

深川市議会議長 鶴岡恵司 様

会派名 令和公明クラブ

代表者名 宮澤孝司



政務活動費実績報告書

深川市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、下記のとおり報告します。

記

使 途	<input type="checkbox"/> 調査研究費	<input checked="" type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費
実施期間	令和2年2月11日～2月14日				
実施場所	滋賀県大津市（全国市町村国際文化研修所）				
参加者名	宮澤孝司、松本雅祐、山本時雄				
実績額	119,622 円（うち交付請求額 96,704 円）				
内 容	視察研修内容 「交通不便地域の住民サービスを考える」 2月12日～14日				

【報告書】

◆内 容：令和元年度 実務研修

「交通不便地域の住民サービスを考える」

◆日時：令和2年2月12日（水）～14日（金）

◆場所：滋賀県唐崎市・JIAM 全国市町村国際文化研究所



【研修会 会場】



【オリエンテーション風景】

《研修1日目》

◆2月12日（水）

10:50～12:00

・入寮受付（昼食）

開講オリエンテーション

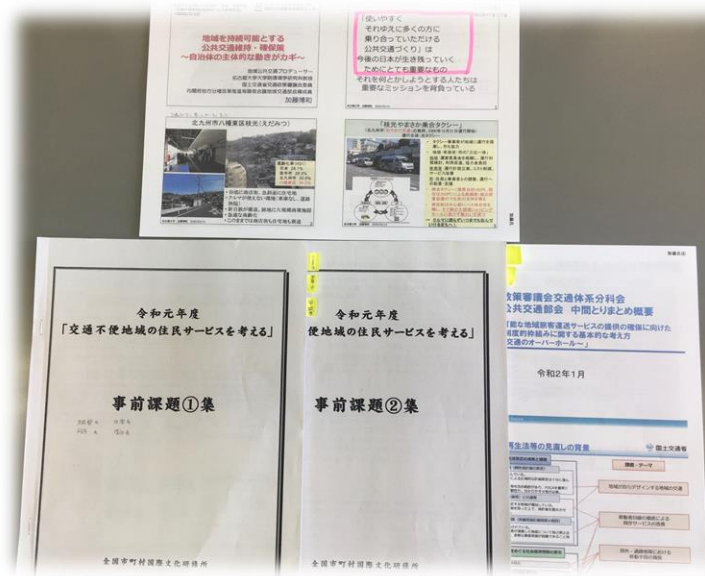
入寮オリエンテーション

【3時限・4時限】

13:00~15:35

講義：公共交通不便地域において必要な政策 ~ 自治体の動きがカギ~

講師：名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 加藤 博和 氏



【研修資料】

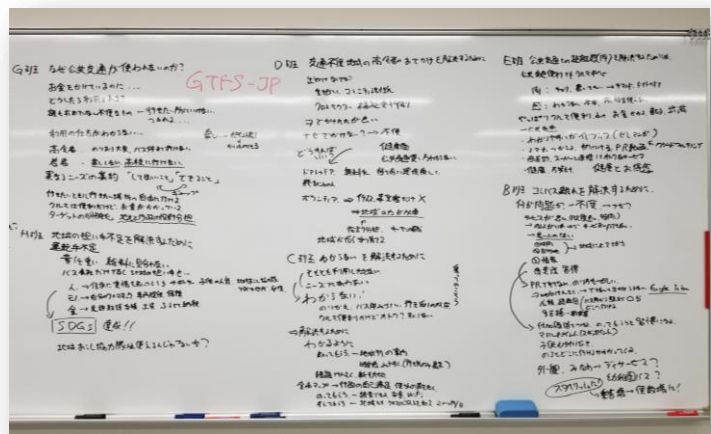
講義内容は、

- ① 地域を持続可能とする公共交通維持・確保策「自治体の主体的な動きがカギ」
- ② 自治体は地域公共交通にどう取り組むべきか「誤解を乗り越え、そして未来へ」

③ 地方議員が地域公共交通政策に臨む際に心得るべき六箇条

④ 「おでかけ」したくなる健康なまちを支える公共交通づくり

⑤ 交通政策審議会交通体系分科会 地域公共交通部会 中間とりまとめ概要



【協議内容をホワイトボードに記入】



【グループ討議風景】

【5時限】

15:50～17:00

【意見交換会】

全国から参加した受講者で、それぞれの自治体の課題の共有と意見交換を行い、終了後、パネルディスカッションを行いました。

【課外】17:00～ 交流会

《研修2日目》

コーディネーター：合同会社おでかけカンパニー代表 兼

名古屋大学大学院 環境学研修科 客員准教授 福本 雅之 氏

◆2月13日（木）

【1時限】

9:25～10:35

事例紹介1（兵庫県豊岡市）

持続可能な公共交通サービス

講師：兵庫県豊岡市 都市整備部都市整備課 交通政策係

主幹 瀬崎 晃久 氏



【2時限】 10:50～12:00

事例紹介2（群馬県渋川市）

ささえあい買い物事業（渋川市社会福祉協議会の取組）

講師：群馬県渋川市 社会福祉協議会 生活支援課 課長 登坂 将志 氏



【事例紹介資料】

【3時限】 13:00～14:10

事例紹介3（岩手県北上市）

中心街のバスターミナル見直しと
郊外部の輸送サービス

講師：群馬県渋川市 都市整備部
都市計画課 課長補佐 高橋
正貴 氏

【4時限】 14:25～15:35

演習：交通不便地域の住民サービス
を考える

講師：名古屋大学大学院環境学研修科
客員准教授 福本 雅之 氏

【課外演習】 17:00～19:00

翌日発表する課題解決に向け、7グル
ープに分かれ、それぞれ地域公共交通

の課題を決め、課題解決に向けた活発な意見を話し合い、終日協議しました。



《研修3日目》

◆2月14日（金）9：00～12：00

演習：発表・意見交換・講評

講師：名古屋大学大学院環境学研修科 客員准教授 福本 雅之 氏



グループごとに、司会、発表者、書記などの役割を決め、各グループ課題について研修発表を行いました。発表された内容について他のグループの方から質問を受け、課題解決に向け意見交換など熟議しました。

そして、最後に講師の福本先生から講評を頂き終了しました。

【閉講式】12：00～12：15

閉講・事務連絡のあと、全ての講習を受講した受講生に受講証明書が渡されました。



【受講証明書・松本分】

【 総 評 】

今回の研修会は、交通不便地域を取り巻く現状及び課題について協議し、地域での様々な取り組み等について、講義や事例紹介を通して学び、受講者間の地域の状況を共有しながら、グループ討議を通して、今後の取り組みについて考えた研修会でした。

令和公明クラブ会派として、研修前に市内循環線に乗車（宮澤会長は市内循環線・松本幹事長も市内循環線・山本事務局長は音江線）し、市内の地域公共交通に対しての課題を明確にし、特に、山本時雄議員の地元菊丘地域は、令和元年10月、北海道中央バス社から運転手不足を理由に、土日祝日は運航しない、朝晩の便を減便にするなど、実際に公共交通に影響が出ております。

市内の公共交通空白区地域の市民の皆様の生活の足をどのように確保構築して、安心して安全なまちづくりに、取り組むため、しっかり議会議論を重ねながら推進してまいります。



令和元年12月20日

深川市議会議員 鶴岡 恵司 様

会派名 令和公明クラブ

代表者名 宮澤 孝司



政務活動費実績報告書

深川市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、下記のとおり報告します。

記

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費	<input checked="" type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費
実施期間	令和元年10月28日～10月31日				
実施場所	香川県坂出市・善通寺市、高知県高知市				
参加者名	宮澤孝司、松本雅祐、山本時雄				
実績額	263,296円（うち交付請求額 263,296円）				
内 容	<p>視察内容</p> <p>29日 香川県 坂出市 地域公共交通政策について 善通寺市 讃岐もち麦ダイシモチ」地域ブランド化に向けた取り組みについて</p> <p>30日～31日 高知県 高知市 第14回全国市議会議員会研究フォーラム in 高知 ・フォーラムでは、「議会活性化のための『船中八策』」をテーマに2日間にわたってパネルディスカッションや課題討議を展開し、議会が取り組むべき課題について議論した。 このフォーラムは全国の約2100人の市議会議員が参加。</p>				

2019 年度令和公明クラブ
《行政視察・研究会の報告書》

会 長	宮澤	孝司
幹 事 長	松本	雅祐
事務局長	山本	時雄

◆視察日程 令和元年10月28日(月)から31日(木)

◆視察・研究会の項目

香川県坂出市 地域公共交通政策について

香川県善通寺市 「讃岐もち麦ダイシモチ」地域ブランド化
に向けた取り組みについて

高知県高知市 第14回全国市議会議長会
研究フォーラム in 高知

[日 程]

◆10月28日(月) 移動日

◆10月29日(火)

視察地：香川県坂出市

視察項目：地域公共交通政策について



坂出市は、従来から JR 坂出駅を中心に路線バスや市営バスが運行されていた。しかし、モータリゼーションの進展や人口減少により、利用者が減少し、今後、必要な移動手段である公共交通をどう維持していくかが重要な課題となっており、平成22年に高齢化社会を迎える中で、

交通弱者にとって必要な交通手段と利用促進を図るため「坂出市地域公共交通総合連絡計画」を策定しました。

そして、平成23年デマンド型乗合タクシーの運行を開始し、平成24年には、JR 坂出駅を起終点として市街地における主要施設を経由する循環バスの運行をするなどして、市民の利便性の向上と地域活性化のため、さらなる公共交通の利用促進に取り組んでおります。

〔調査項目〕

- ・公共交通空白区交通手段の確保事業の取り組みの経緯と経過について
- ・デマンド型乗合タクシーの運行事業と循環バス事業の内容、予算、財源内訳について
- ・運行体制及び過疎地域への対応について
- ・利用促進施策について
- ・免許返納者への対応等について
- ・公共交通の今後の課題について



【坂出市では議長がお出迎えをしてくれました。】



【担当者から、地図を見ながら説明お受けました。】

◆10月29日（火）

視 察 地：香川県善通寺市

視察項目：「讃岐もち麦ダイシモチ」地域

ブランド化に向けた取り組み

善通寺市は、香川県の北西部に位置し、人口（H31.3.31現在）は、32,107人の田園文化都市であります。

弘法大師空海が父佐伯善通を供養するために寄進した善通寺の門前町である。1997年（平成9年）に善通寺市内にある、農研機構西日本農業研究センターで育成された、もち麦の大麦（裸麦）品種を、弘法大師空海にちなんで「讃岐もち麦ダイシモチ」と名付け、善通寺市は新たな特産品として売り出しました。もち麦ダイシモチは、優れた栄養価があり、スイーツやお酒などの加工品も続々登場している。



【もち麦ダイシモチ】

[調査項目]

- ・「讃岐もち麦ダイシモチ」の事業の内容について
- ・各種団体との連携について
- ・第三セクター・(株)まんでがんの事業主体について
- ・「讃岐もち麦ダイシモチ」の商品開発と販売状況について
- ・課題について



【善通寺市では宮澤会長が視察受け入れの御礼のあいさつをしました。】



【善通寺市は西日本有数で県内唯一の黒板メーカーがあり、毎年芸術の秋には、「黒板アート」を開催しております。当日は、善通寺市の庁舎内では、“芸術の秋”という事で、黒板アートやチョークアート展が開催されておりました。力作ばかりで、黒板アートの醍醐味を味わいました。】



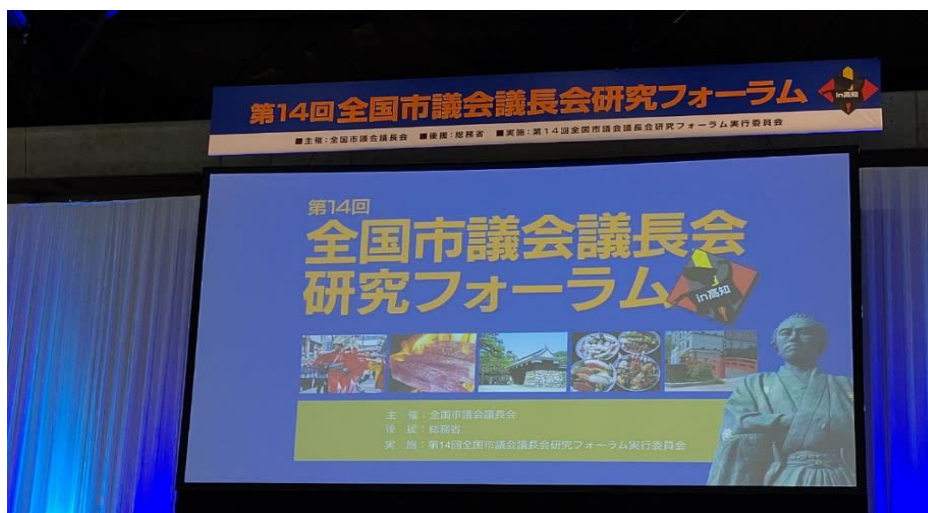
【今回の坂出市と善通寺市の視察は、公政クラブ様と一緒に行いました。】

◆10月30日（水）

視察地：高知県高知市 高知ちばさんセンター

研修会：第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

大会テーマ：「議会活性化のための船中八策」



フォーラムでは「議会活性化のための『船中八策』」をテーマに2日間にわたってパネルディスカッションや課題討議を展開し、議会が取り組むべき課題について議論しました。

第1部

【基調講演】 講師、中島岳志教授（東京工業大学院教授）

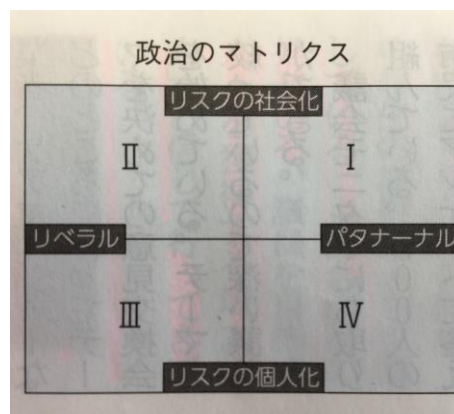
【演 題】 「現代政治のマトリクス—リベラル保守という可能性」



内容は、自民党の過去50年の変遷について分析する中で、現在の安倍政権の政治的位置づけを解説し、これに対する野党の取るべき戦略などについて講演。

【講演内容】

政治は内面で 2 つの大きな仕事をしている。一つはお金の出し入れをする仕事。もう一つは価値をめぐる仕事。政治のマトリクスを表で示し、縦軸にお金、横軸に価値を置く。リスクの個人化とは、個人で対応してください。という考えで、自己責任論が強くなる「小さな政府」。リスクの社会化は、みんなで補いましょうという考えで、「大きな政府」もう一つの価値の問題は、リベラルとパターナルに分かれ、リベラルは、「あなたの思想、考えは認めましょう。その代わりに私が信じる思想には、介入しないでくれ」という考え方。このリベラルの反対概念は「保守」と言われるがそれは間違いで、反対語はパターナル（日本語で父権的）である。政治家、政党を分析するにはこうして、お金と価値をめぐる位置づけていくべきであり。今の自民党を考えるに、安倍内閣はパターナルな傾向が強く図で言うとIVに入る。



【マトリクスの図】

自民党は昔からそうだったか40-50年前の自民党は真ん中より上のゾ



ーンだ。田中角栄内閣がI、大平正芳内閣がIIで勝負していた。この二つのラインが「保守本流」である。その後、中曽根、橋本、小渕、森内閣の流れを経て小泉内閣になって、自民党が一気に「リスクの個人化」へと動いた。

規制緩和や構造改革、マーケット至上主義へ、さらに安倍内閣へと変化し価値の問題へと踏み込んで

きた。これに対して野党は、揺れ動いている。2年前に希望の党が立ち上がり、あっという間に勢力を失った。希望の党は「皆で支え合おうというリスクの社会化」路線を主張した。

しかし、その勢力が安部内閣に近いゾーンにいる小池百合子と組みました。図で言うと斜めと組むと何をやりたいのか訳がわからなくなる。

第2部

【パネルディスカッション】「議会活性化の船中八策」



【研究フォーラムの登壇者野方々です】

- ◆コーディネーター
坪井 ゆずる 氏
(朝日新聞論説委員)
- ◆パネリスト
 1. 高部 正男 氏
(市町村職員中央研修所学長)
 2. 横田 響子 氏
(株式会社コラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授)
 3. 古川 康造 氏
(高松丸亀町商店街振興組合理事長)
 4. 田鍋 剛 氏
(高松市議会議長)

■パネルディスカッションでは、議会をより良くするヒントを考えました。



【会場は大きな体育館のようでした。】

問い：今の地方議会に対する認識は？

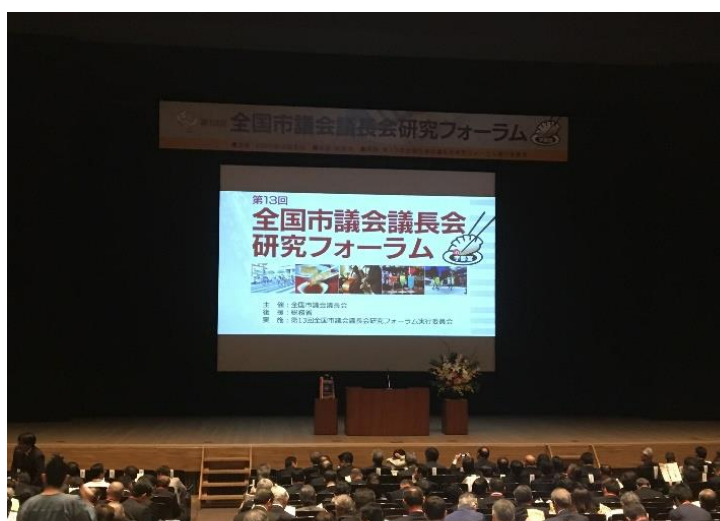
高部氏：「何をしているのかよく分からない」「長の提案を追従ばかりしているのではないか」と言う人がおり、こうした意見は一つのとらえ方として受け止めなければいけない。一方で議会改革の取り組みが全国で広がっている印象もある。議会基本条例の制定も進んでいる。基本条例は議会改革の出発点であらねばならないし、継続的な取り組みは必要だ。

基本条例は議会改革の出発点であらねばならないし、継続的な取り組みは必要だ。

横田氏：地方議会では20年後の住民のための議論がなされているかが気になる点だ。生まれた子どもが20歳になったときのことを考えて責任の持てる地域づくりをするのは優先度が高い政策のはずだ。もう一つは、データに基づいた政策づくり（EBPM）がされているかどうかだ。

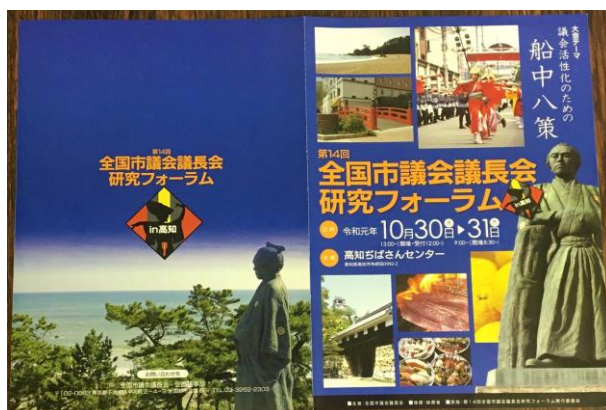
古川氏：全国の地方都市の中心市街地が再生に向かっていないようだ。要因の一つに議会の構成があると思う。市中心部にいた居住者が郊外に転出し、議員もほとんどが郊外から選出される。議員は選出されたその地域の代表として活動する。大変頼りになる。裏返して言うと地元もためにならない議員は議員になってもらっては困るとい
うローカルリズムがある。

田鍋氏：高知市議会の過去3回の投票率は厳しく、市民の政治離れに歯止めがかかっていない。これまでは若い人の低投票率が問題になっていた。今年の4月の選挙では40歳～50歳台の投票率が落ちており、議会と



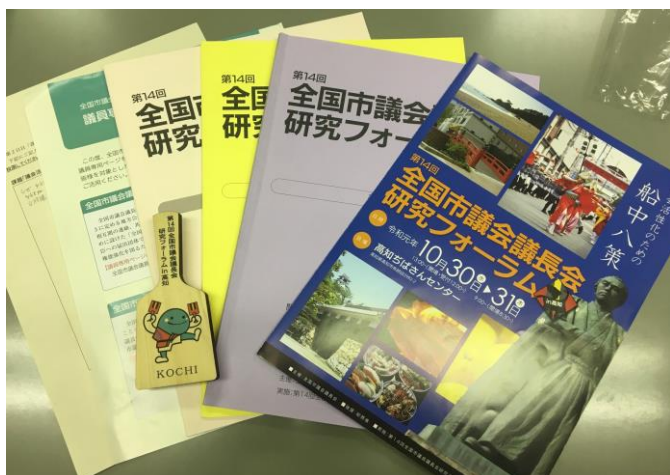
して何らかのアクションを取っていく時期に来ていると認識している。議会基本条例については大事な条例だと思うが、現行制度でもあらゆることが議会としてできるのではないかと考える。議員が任務と役割を認識して2元代表制の意味を胸に刻まないと魂の入った条例にはなりにくいのではないかと。

問い：どうすれば市民の議会への関心が深まるだろうか。



高部氏：投票率低下への対策としては選挙期日の統一を考えて見たらどうか。選挙を一緒に実施することで市民の関心も高まる。議員のなり手不足対策や、女性、若者が議員になりやすい環境づくりと言う観点からの議論も必要だ。議会はチェック機能をしつかり果たすことが大事だ。

横田氏：多様な人材でガチンコ会議もしてもらいたい。20年後の絵姿を見なが



【研究フォーラムの資料一式です。】

らどうしていきたいか、地域の人と話していくとアイデアが増えてくると思う。住民との会話を作っていくことも議員の役割だ。

古川氏：個人的には議会改革は果たして必要なのかと思っている。議員のなり手がなぜ少ないかだが、議員になって給料を公費でもらうと一気に社会から監視されるようになる。議員が地

域の代表である以上、市民はリスペクトが必要だし、しかるべき報酬なども必要と思う。選挙制度の話があったが、高松市議会の場合は、地域密着はきちんとできていると思う。丸亀商店街には358の市議会が視察に来ている。以前とはガラリと変わり、今は各議員がとても相当勉強している。こうした姿が市民にうまく広報されていない。そこにリスペクトがない。これこそが問題なのだと思う。

高部氏：そもそも地方自治、国政に関心を持ってもらえない状況がある。

坪井氏：市民から議会活動に関心を持たれないのは話題がつまらないからではないか、住民が関心を持ちそうな話についてみんなが集まりやすいところで議会報告会をやるという事につきと思う。

第3部



【会場の高知市 高知ちばさんセンター】

【意見交換会】

意見交換会は会場を変えて、全国から参加された市／区議会議員の皆様で意見交換会を行いました。このフォーラムは約2100人の市／区議会議員が参加。

◆10月31日（木）[研修内容]

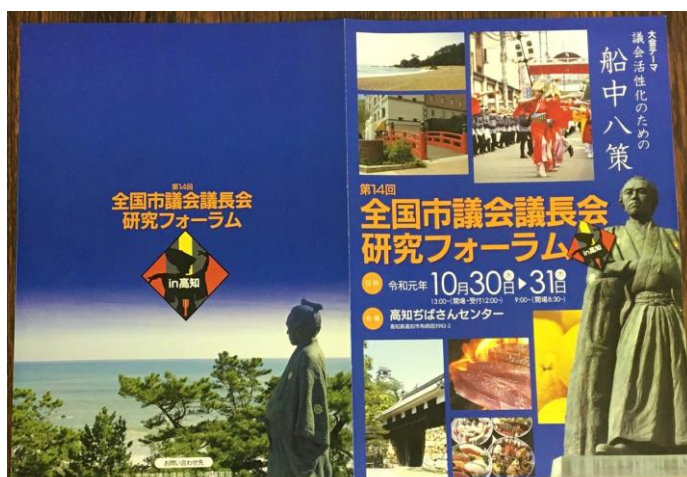
第4部

【事例報告】「議会活性化のための船中八策」

◆コーディネーター
坪井 ゆずる 氏
(朝日新聞論説委員)

◆事例報告者

1. 滝沢 一成 氏
(上越市議会議員)
2. 久坂 くにえ 氏
(鎌倉市議会議長)
3. 小林 雄二 氏
(周南市議会議長)



■報告事例は、各議会で取り組んでいる議会改革について報告がありました。

◆上越市議会

「市議を目指しやすい環境整備検討会議」を議長の諮問組織を設置。住民との意見交換会や議会モニター制度の実施。その他にも女性フォーラムや中学生の模擬議会も実施していると報告。

◆鎌倉市議会 初めて現職で出産した議員がおり、議会では出産は会議規則の欠席事由になっておりません。欠席できるように事由が改正された。しかし、産前産後休暇の明記はない。産前産後休暇と看護休暇は一般的には法定化されているのに地方議員は法的位置づけが明確化されていない。国への議員の位置づけと地方議会では議会規則でも改正してほしい。そうすることにより議会に多様な人材、幅広い年齢層を受け入れられる。そうすることにより議会の価値が上がる。

◆周南市議会 平成16年7月に議会改革特別委員会を設置して「開かれた議会を目指して」「議員の資質向上」を協議し、並行して「政治倫理条例制定特別委員会」を設置し、「議員の位置づけを明確化」した。議会基本条例については、

「定めるとそれに縛られ、機動性と柔軟性が失われるのではない」という意見が
だされ策定していない。

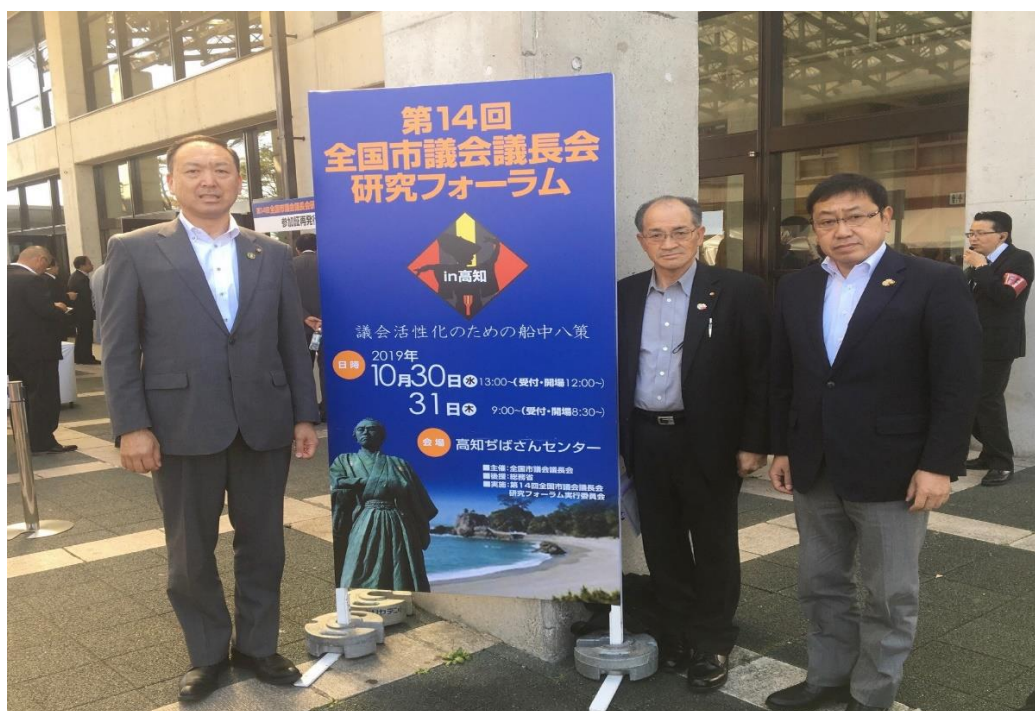
このほかにも、「行政監視機能の特長や事例紹介」や「市民の声をどのように
集めているのか」、「政治を志す人たちへの言葉」などの報告がありました。

最後に参加者からの質問会も行われました。

研究フォーラムの最後で、パネラーの
ご意見を基に「議会活性化の船中八策」
が整いました。

- ① 監視機能の強化
- ② 次世代を見据えた議論
- ③ データを踏まえた議論
- ④ 多様性の確保
- ⑤ 地方自治法 96 条 1, 2 の活用
- ⑥ 労働法則の見直し
- ⑦ 情報公開の徹底
- ⑧ 合意形成

合意形成のためには議員討論を増やし、徹底議論するしかないという事だと思
う。これを加えて 8 策が揃った。議会改革の一助になれば。この事を確認し
て、研究フォーラムは閉会しました。



【会場前で記念撮影、左側から松本幹事長、山本事務局長、宮澤会長】

[総 評]

今回の研究フォーラムに参加し、「議会の活性化」を進めていくには様々な課題があり、議会としてしっかり取り組んでいくことを学んできました。

現在、深川市議会でも議会活性化のための「議会改革特別委員会」を設置しました。この特別委員会では、令和公明クラブからは、宮澤孝司会長が議会改革特別委員会の副委員長、松本雅祐幹事長が委員として参加しております。

「議会活性化」のためにはやはり、議会が本来有している権限を行使することを宣言する『議会基本条例』を策定することが重要であると感じております。そのことにより、市民の皆様へ、開かれた議会、信頼される議会を構築することができると思います。

「議会の活性化」の推進にあたって、我が会派として、「議会報告会」や「意見交換会」を積極的に開催し、市民の皆様の声をお聞きし、聞くだけではなく政策などの形にできるよう活動して参ります。

そうすることにより、市民の皆様により身近で信頼される議会の構築ができると考えます。

これからも、郷土深川の住民福祉の向上と地域振興の発展に努めて参ります。